

# ウーバー配車実験視察

## チームネクスト 淡路島でセミナー



初日の冒頭、あいさつする貞包代表世話人（4日、兵庫県南あわじ市）

に講演した。

タクシー経営者ら有志でつくるチームネクスト（代表世話人・貞包健一三ヶ森タクシー社長＝北九州市）は4、5の両日、兵庫県淡路島でセミナーを開催、Uber（ウーバー）配車アプリ実証実験の関係者と意見交換した。ステッカーが貼られた車両などを視察し、乗務員に運用面を聞いた。実験は兵庫県淡路県民局と地元のタクシー会社、ウーバーが提携して昨夏から行われている。

高野氏は高齢者比率の上昇や、明石海峡大橋の開通による宿泊者の減少などによって「今後は英語圏の外国人旅行者の取り込みが鍵。鉄道のない島で外国人の利便を考えると、ウーバーに行き着いた」とした。その上で「ライドシェアではなく、あくまでもタクシーのスタンスで交渉を重ね、タクシー用にカスタマイズした配車アプリと島内2人常駐のヘルプデスク（問い合わせ対応業務）の形になった」と述べた。

セミナーの会場は南あわじ市の淡路島うずしお温泉旅館「うめ丸」。2日目に、みなとタクシーの池田昌宏社長と県民局の高野滋也県民交流室長が島内のタクシ

初日あいさつした貞包氏は「Maas」（マース、移動サービス連携・統合）に言及し、「タクシーがさらに変わらなければならな

い」と促した。人流・観光研究所の寺前秀一所長が昨年のモスクワセミナーを報告。行政書士の関間拓郎氏が「人材不足解消のための入管法（出入国管理・難民認定法）改正」を題材に、日本にルーツを持つフィリピン人日系3世らに活躍してもらおう可能性を示した。

事業部の井上桂基氏が説明。配車アプリ「MOV（モブ）」の展開について、プロ野球・横浜DeNAベイスターズの黒字化を引き合いにエリア戦略を徹底する組織力について触れた。次回の海外研修に関し、清野吉光事務局長がフィンランド・ヘルシンキのモビリティ関連ベンチャー「マース・グローバル」への視察を提案した。

「横浜の地域活性化とタクシー配車システム」を、DeNAオートモティブ